

大阪大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

「本物の麻酔科専門医を育てたい。これが阪大麻酔科の思いです。」

本研修プログラムは、専攻医一人一人に「本物の麻酔科専門医」としての知識と技量そして社会性を習得・体得し、先進医療と地域医療のニーズに応える責任ある医師を育成するための研修環境を提供することを主眼としている。

本研修プログラムの基幹施設は、国公立大学病院の中でも有数の臨床実績を誇る大阪大学医学部附属病院（以下、阪大病院）である。阪大病院の麻酔科および集中治療部（ICU）の母体である大阪大学医学部麻酔集中治療医学教室（以下、阪大麻酔科）は、これまでに多数の麻酔科専攻医を指導、育成し、臨床のみならず学術の面でも優れた麻酔科専門医として世に輩出しており、大阪府下・兵庫県下の多くの連携病院の医療のニーズに応じている。

本プログラムの特徴を以下に挙げる。

(1) 施設数と症例数が豊富である

麻酔科専門医として世に立つためには、多くの症例を経験する中で幅広い知識と技術を習得、体得せねばならない。あらゆる診療科における様々な手術を、新生児から超高齢者にいたるまで、そして重症度の低いものから高いものまで、幅広く多く経験

する必要がある。そのためには症例数の量と質が富んでおり、多くの指導医を有するプログラムで研修することが望ましい。

本プログラムの病院群は、基幹施設である阪大病院をはじめ、連携施設として大阪府立急性期総合医療センターや大阪警察病院のような急性期施設、市立豊中病院などの地域の中核病院、そして大阪府立母子保健総合医療センターや大阪府立呼吸器アレルギーセンターのような専門病院によって構成されており、プログラム内の症例数および指導医数の豊富さ。したがって本プログラムでの研修によって、麻酔科専攻医は幅広い臨床経験を積み指導を受けることができる。

(2). フレキシブルなローテーションを提供する

本研修プログラムは、多くの連携施設と豊富な症例数をもとに、専攻医の成長に応じたフレキシブルなローテーションを年次ごとに提供する予定である。各年度の秋頃に研修管理委員が各専攻医にヒアリングを実施して専攻医の短期的・長期的な展望を聴取した上で、研修管理委員会において研修の進捗度を評価し、専攻医の次年度の異動先を決定する。

以上のように、本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成するための最適な教育環境を有している。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間を通して、麻酔科専門医として必要な症例数および特殊麻酔の症例数を達成し、かつ将来的に希望するサブスペシャリティの経験を積むことができるように、柔軟なローテーションを構築する。
- 基幹施設（阪大病院）での研修は義務ではない。
- 特殊麻酔の規定症例数を達成できるように、専門病院での短期的研修を行うこともある。

研修実施計画例

	A (標準A)	B (標準B)	C(ペイン)	D (集中治療)
初年度 前期	阪大病院 (手術室)	国立大阪 医療センター	大阪警察病院	府立急性期医療セ ンター
初年度 後期	阪大病院 (手術室)	国立大阪 医療センター	大阪警察病院	府立急性期医療セ ンター

2年度 前期	阪大病院 (手術室)	国立大阪 医療センター	大阪警察病院	府立急性期医療セ ンター (ICU)
2年度 後期	阪大病院 (ICU)	国立大阪 医療センター	大阪警察病院	府立急性期医療セ ンター (ICU)
3年度 前期	府立急性期医 療センター	府立 成人病センター	阪大病院 (手術室)	母子保健センター
3年度 後期	府立急性期医 療センター	府立 成人病センター	阪大病院 (ペイン)	母子保健センター (ICU)
4年度 前期	市立豊中病院	母子保健センター (小児麻酔) 阪大病院 (心臓麻酔)	西宮市立中央病院 (ペイン)	阪大病院 (ICU)
4年度 後期	市立豊中病院	愛染橋病院 (産科麻酔) 刀根山病院 (胸部外科麻酔) 大阪脳神経外科 (脳外麻酔)	西宮市立中央病院 ペイン	阪大病院 (ICU)

週間予定表

阪大病院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	外勤	当直	休み
午後	手術室	手術室	休み	手術室	外勤	当直	休み
当直		当直				当直	

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：24,019症例

本研修プログラム全体における総指導医数：98人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	2,291症例
帝王切開術の麻酔	886症例
心臓血管手術の麻酔	1,501症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	1,147 症例
脳神経外科手術の麻酔	961 症例

① 専門研修基幹施設

研修プログラム統括責任者：吉田健史（2024年4月より）

専門研修指導医：藤野裕士（麻酔・集中治療）

萩平 哲（麻酔）

高階雅紀（麻酔）

上林卓彦（麻酔）

内山昭則（集中治療）

澁田達史（麻酔）

柴田 晶カール（麻酔・集中治療）

松田陽一（麻酔・ペインクリニック）

高橋亜矢子（麻酔・ペインクリニック）

井浦 晃（麻酔）

入嵩西毅（麻酔）

宇治満喜子（麻酔・集中治療）

吉田健史（麻酔・集中治療）

専門医：興津健太（麻酔）

大瀧千代（麻酔）

大田典之（麻酔・集中治療）

平松大典（集中治療）

岩崎光生（麻酔）

植松弘進（麻酔・ペインクリニック）

今田竜之（麻酔）

佐藤正典（麻酔）

山本俊介（麻酔）

山下智範（麻酔・集中治療）

本庄郁子（麻酔・集中治療）

小山有紀子（集中治療）

吉田淳子（集中治療）

麻酔科認定病院番号：49

特徴：・あらゆる診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA1～5の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。

- ・特殊症例の症例数が豊富であり、2年間の在籍で脳神経外科手術を除く特殊症例の症例数の達成が可能である。
- ・集中治療の研修を行うこともできる。

麻酔科管理症例数 6,356症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	370症例
帝王切開術の麻酔	120症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	450 症例
胸部外科手術の麻酔	300 症例
脳神経外科手術の麻酔	180症例

② 専門研修連携施設A

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター（以下、大阪南医療センター）

研修実施責任者：林 英明

専門研修指導医：林 英明（麻酔）

竹田 清（麻酔）

赤松 哲也（麻酔）

麻酔科認定病院番号：544

特徴：日本臨床麻酔学会教育インストラクター（神経ブロック）在籍

麻酔科管理症例数 1,897 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	30 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	30 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	50 症例

大阪府立成人病センター（以下、成人病センター）

研修実施責任者：谷上博信

専門研修指導医：谷上博信（麻酔，集中治療）

大川 恵（麻酔，集中治療）

飯田裕司（麻酔，集中治療）

藤田泰宣（麻酔，集中治療）

大橋祥文（麻酔，集中治療）

萬代裕子（麻酔，集中治療）

専門医：園田俊二（麻酔，集中治療）

日生下由紀（麻酔，集中治療）

藤井尚子（麻酔）

鳥井直子（麻酔）

麻酔科認定病院番号 187

特徴：集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数2,660症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	180 症例
脳神経外科手術の麻酔	35症例

大阪府済生会中津病院

研修実施責任者：岩倉健夫

専門研修指導医：岩倉健夫（麻酔，集中治療）

徳永千春（麻酔）

植田一吉（麻酔、集中治療）

富岡恵子（麻酔）

専門医：小寺智子（麻酔）

潮田梓（麻酔）

田村岳士（麻酔）

入口梓（麻酔）

麻酔科認定病院番号 311

麻酔科管理症例数 2900症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	10症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	30 症例
胸部外科手術の麻酔	50 症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

市立豊中病院（以下、豊中病院）

研修実施責任者：高田幸治

専門研修指導医：高田幸治（麻酔，集中治療）

香河清和（麻酔，集中治療）

二宮万理江（麻酔、ペインクリニック）

松本充弘（麻酔，集中治療）

佐々原友子（麻酔）

麻酔科認定病院番号： 352

特徴：集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例 2,731症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	38症例
帝王切開の麻酔	12症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	65 症例
脳神経外科手術の麻酔	40症例

大阪府立母子保健総合医療センター（以下、母子センター）

研修実施責任者：谷口晃啓

専門研修指導医：谷口晃啓（麻醉）

木内恵子（麻醉）

宮本善一（麻醉）

竹内宗之（集中治療）

橘 一也（集中治療）

専門医：伊藤一樹（麻醉）

脇本麻由子（麻醉）

川村 篤（麻醉）

寺西理恵（麻醉）

麻醉科認定病院番号 260

特徴：集中治療のローテーション可能

麻醉科管理症例数 4,254症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	1,400症例
帝王切開術の麻醉	280症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	100 症例
胸部外科手術の麻醉	7 症例
脳神経外科手術の麻醉	110症例

大阪労災病院

研修実施責任者：寺井 岳三

専門研修指導医：寺井 岳三（麻醉，ペインクリニック）

宮田 嘉久（麻醉）

水谷 光（麻醉）

藤井 崇（麻醉，心臓血管麻醉）

松浦 康司（麻醉）

山下 淳（麻醉，心臓血管麻醉）

高橋 佳代子（麻醉，区域麻醉）

専門医：旭爪 章統（麻醉 ペインクリニック）

横川 直美（麻醉，区域麻醉）

山本 陽子（麻醉，区域麻醉）

麻酔科認定病院番号 197

特徴：心臓血管麻酔，ペインクリニックの研修が可能

麻酔科管理症例数 4,248 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6症例
帝王切開術の麻酔	4症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	32 症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	13症例

国立研究開発法人国立循環器病研究センター

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（麻酔）

亀井政孝（麻酔）

吉谷健司（麻酔）

金澤裕子（麻酔）

専門医：三宅絵里（麻酔）

加藤真也（麻酔）

窪田洋介（麻酔）

増渕哲二（麻酔）

森島久仁子（麻酔）

麻酔科認定病院番号： 168

特徴：心臓大血管手術の症例数が多いこと。脳血管外科手術症例、産科症例が多くあること

成人心臓外科手術では弁手術、冠動脈バイパス術が多い。小切開手術、ロボット手術、TAVI、LVAD装着手術、心臓移植もある

小児心臓外科では新生児から成人先天性手術まで幅広く手術をおこなっている。新生児姑息術も多い。

脳外科手術ではバイパス手術、カテーテルインターベンションが多くある。内頸動脈内膜剥離術やクリッピングも多い。

帝王切開手術では、先天性心疾患や肺高血圧などを合併した妊婦の管理がある。

麻酔科管理症例 2, 276症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	11症例
帝王切開の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	21症例

箕面市立病院

研修実施責任者：数見 健一郎

専門研修指導医：岡田 俊樹（麻酔）

人見 一彰（麻酔）

石井 努（麻酔）

有村 佳修（麻酔）

数見 健一郎（麻酔）

西原 留奈（麻酔）

専門医：大西 佳恵（麻酔）

木内 知子（麻酔）

麻酔科認定病院番号 368

特徴：外科緊急手術を数多く経験することが出来ます

麻酔科管理症例数 2021症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	14症例
帝王切開術の麻酔	15症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	40 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

市立池田病院（以下、市立池田病院）

研修実施責任者：小野まゆ

専門研修指導医：小野まゆ（麻醉，ペインクリニック）

小野理恵（麻醉，集中治療）

森梓（麻醉）

金史信（麻醉）

専門医：滝本佳予（麻醉）

熱田淳（麻醉）

藤井佑香（麻醉）

神崎由莉（麻醉）

麻醉科認定病院番号 841

麻醉科管理症例数 1816症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	30 症例
帝王切開術の麻醉	0 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	0 症例
脳神経外科手術の麻醉	0 症例

③ 専門研修連携施設B

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

研修実施責任者：渋谷博美

専門研修指導医：渋谷博美（麻醉）

天野栄三（麻醉）

専門医：牧野裕美（麻醉）

松田智明（麻醉）

伊藤千明（麻醉）

前田晃彦（麻醉）

麻醉科認定病院番号 584号

特徴：当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町4丁目」駅上にあります。

29の診療科があり、外科、整形外科をはじめ、多くの手術が毎日施行されています。

小児は、耳鼻科手術のほか、骨形成不全症などの整形外科手術の麻醉が多く、また、成人

の弁や冠動脈疾患を中心とした心臓麻酔、食道・肺などの悪性疾患を中心とした胸部外科麻酔の他、脳外科の血管内手術や覚醒下手術の麻酔も経験できます。育児支援としては、敷地内保育園だけでなく、病児保育や夜間保育もあり、ママ麻酔科医が働ける環境が整っています。

麻酔科管理症例数 3,328症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	16症例
帝王切開術の麻酔	20症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	44 症例
胸部外科手術の麻酔	51 症例
脳神経外科手術の麻酔	67症例

大阪警察病院

研修実施責任者：北 貴志

専門研修指導医：北 貴志（麻酔）

谷口 洋（麻酔）

清水智明（麻酔）

井上潤一（麻酔、ペインクリニック）

専門医：荒井章臣（麻酔）

上田篤史（麻酔）

猪原智恵（麻酔）

竹田峰子（麻酔）

井上由紀子（麻酔）

鈴木史子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：295

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 4576症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	15症例
帝王切開術の麻酔	30症例
心臓血管手術の麻酔	100 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	100 症例
脳神経外科手術の麻酔	100症例

大阪府立急性期・総合医療センター

研修実施責任者：西村信哉

専門研修指導医：西村信哉（麻酔、集中治療）

稲森紀子（麻酔、集中治療）

山下健次（麻酔、集中治療）

森隆比古（麻酔、集中治療）

平尾 収（麻酔、集中治療）

専門医：東名里恵（麻酔、集中治療）

桐山圭司（麻酔、集中治療、救急医療）

麻酔科認定番号70

特徴

- ・大阪府下有数の急性期病院であり、豊富な症例数を経験することによって、麻酔科専門医としての幅広い技術と知識の習得が可能である。
- ・集中治療の研修も可能である。

麻酔科管理症例 5, 018症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	50症例
帝王切開の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	100症例
胸部外科手術の麻酔	75 症例
脳神経外科手術の麻酔	100症例

西宮市立中央病院

研修実施責任者：前田倫

専門研修指導医：前田倫（麻酔・ペインクリニック）

松村陽子（麻酔・ペインクリニック）

中村武人（麻酔・ペインクリニック）

専門医：関井ふみ（麻酔）

若山寛（麻酔・ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：571

特徴：ペインクリニックの研修可能

麻酔科管理症例数 696症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	9 2 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

独立行政法人 国立病院機構 刀根山病院（以下、刀根山病院）

研修実施責任者：松原陽子

専門研修指導医：松原陽子（麻酔、緩和ケア）

松岡由里子（麻酔、緩和ケア）

専門医：松田千栄（麻酔、緩和ケア）

麻酔科認定病院番号 816

特徴：

呼吸器外科の麻酔を集中的に研修できる。

緩和ケアは週に3回回診しており、麻酔科としても積極的に取り組んでいる。対象は主に肺癌患者である。

集中治療は、RICUであり、術後患者は少なく、むしろ呼吸不全と神経内科の急性増悪に特化している（麻酔科としては、平常は担当していないが、研修は歓迎されている）。

麻酔科管理症例数 466症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	120 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

日本生命済生会付属日生病院 (以下, 日生病院)

研修実施責任者: 花田留美

専門研修指導医: 花田留美 (麻酔・緩和)

専門医: 玉井 裕 (麻酔)

麻酔科認定病院番号 569

特徴: ペインクリニック外来、緩和ケアが実践できます。

麻酔科管理症例数 1,604症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	3症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

大阪脳神経外科病院

研修実施責任者: 川口 哲

専門研修指導医: 川口 哲 (麻酔)

麻酔科認定病院番号1092

麻酔科管理症例数 410症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例

脳神経外科手術の麻酔	50症例
------------	------

愛染橋病院

研修実施責任者：福光一夫

専門研修指導医：福光一夫（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号 1126

特徴：周産期症例の麻酔研修が可能

麻酔科管理症例数 838症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	96症例
帝王切開術の麻酔	242症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

紀南病院（以下，紀南病院）

研修実施責任者：上農喜朗

専門研修指導医：上農喜朗（麻酔）

専門医：内藤京子（緩和）

池本進一郎（麻酔）

麻酔科認定病院番号 1344（西暦2008年 麻酔科認定病院取得）

特徴：地方中核病院における臨床麻酔実習

麻酔科管理症例数 1,876症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	25症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例

脳神経外科手術の麻酔	0症例
------------	-----

NTT西日本大阪病院

研修実施責任者：玉垣伸二

専門研修指導医：玉垣伸二（麻酔）

瀬川良雄（麻酔）

専門医：汲田衣里（麻酔）

麻酔科認定病院番号：396

特徴：HCUがあります。各科管理ですが麻酔科も積極的に対応しています。

口腔外科があります。

麻酔科管理症例数 895症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	7 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

研修実施責任者：高内裕司

専門研修指導医：高内裕司（麻酔，集中治療）

専門医：酒井規広（麻酔）

麻酔科認定病院番号：164

特徴：呼吸器外科をはじめ、様々な呼吸機能・呼吸器疾患の外科系手術が豊富で、その

周術期管理が学べる

麻酔科管理症例数：694 症例（2014年度）

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例

帝王切開術の麻酔	10 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	310 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

関西労災病院

研修実施責任者：上山博史

専門研修指導医：上山博史 (麻酔)

馬渡圭子 (麻酔)

加藤絵美 (麻酔)

専門医： 山中寛男 (麻酔)

甲 俊迪 (麻酔)

福原 彩 (麻酔)

岡田夏枝 (麻酔)

春日千春 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：327

特徴：地域における医療の中心施設

麻酔科管理症例 4812 症例 (2014年度)

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	20症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	5症例

国立成育医療研究センター

研修実施責任者：鈴木康之

専門研修指導医：鈴木康之 (麻酔・集中治療)

田村高子 (麻酔・緩和医療)

糟谷周吾 (麻酔)

遠山悟史 (麻酔)

専門医：佐藤正規（麻醉）
 小暮泰大（麻醉）
 山下陽子（麻醉）
 森由美子（麻醉）
 丹藤陽子（麻醉）
 山田美紀（麻醉）

麻醉科認定病院番号：87

施設の特徴

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻醉、産科麻醉（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻醉・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻醉、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

麻醉科管理症例数 4,432症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	150症例
帝王切開術の麻醉	20症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	10症例
胸部外科手術の麻醉	5症例
脳神経外科手術の麻醉	10症例

心臓病センター榊原病院（以下、榊原病院）

研修実施責任者：石井智子

専門研修指導医：（麻醉）石井智子

麻醉科認定病院番号：1142

特徴：心臓血管外科領域の麻醉

麻醉科管理症例数 979症例

	本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	500 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

社会医療法人きつこう会多根総合病院（以下、多根総合病院）

研修実施責任者：棚橋識生

指導医：棚橋識生（麻酔）

専門医：坂口 豪（麻酔）

三馬 葵（麻酔）

藤田尚子（麻酔）

麻酔科認定病院番号： 740

麻酔科管理症例 3050症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	90症例

関西医科大学附属病院

研修実施責任者：上林卓彦

指導医：上林卓彦（麻酔）

中嶋康文（麻酔，心臓血管麻酔）

中本達夫（麻酔，神経ブロック，ペインクリニック，緩和ケア）

大井由美子（麻酔，小児麻酔）

西憲一郎（麻酔，集中治療）

中畑克俊（麻酔，産科麻酔）

岩井鉄平（麻酔）

梅垣岳志（麻酔，集中治療）

廣田喜一（麻醉）
専門医：吉田敬之（麻醉）
二階堂由記（麻醉）

認定病院番号：1234

麻醉科管理症例：5092 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	377症例	15症例
帝王切開術の麻醉	274症例	5症例
心臓血管手術の麻醉（胸部大動脈手術を含む）	247症例	25症例
胸部外科手術の麻醉	185症例	10症例
脳神経外科手術の麻醉	206症例	5症例

5. 募集定員

36名

（*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2016年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、大阪大学大学院医学系研究科麻醉集中治療医学教室website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能であるが、e-mailの方が連絡がしやすい。

担当者：山本 俊介（やまもと しゅんすけ）

大阪大学大学院 医学系研究科 麻醉集中治療医学教室 助教

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

TEL 06-6879-3133 FAX 06-6879-3139

E-mail syamamoto0@anes.med.osaka-u.ac.jp

Website <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/anes/>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専

門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することかできる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての市立豊中病院、西宮中央病院、箕面市民病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。